

令和二年度 後期日程 文学部 日本・中国文学科
入学者選抜学力検査問題 国 語

〔注意〕

- 1 机上に受験票を提示しておくこと。
- 2 監督者の指示があるまで、この冊子を開いてはいけない。
- 3 解答は必ず別紙の解答用紙の指定された箇所に記入すること。
- 4 解答用紙に受験番号・氏名を必ず記入すること。
- 5 この冊子の問題は11ページからなっている。
- 6 この冊子のうちに落丁・乱丁または印刷不鮮明な箇所があれば、手をあげて申し出ること。
- 7 この試験の満点は百点であるが、科目配点に応じて三百点満点に換算する。
- 8 字数制限のある解答では、句読点や括弧なども字数に含める。
- 9 試験開始後六〇分を経過しないと退室できない。また、試験終了前一〇分間は退室できない。退室するときは、手をあげて申し出た上で、試験監督者の指示に従うこと。なお、解答用紙は机上に置き、その上に試験監督者が配付する用紙を重ね、問題冊子は持ち帰ること。

令和二年度

後期日程

文学部

日本・中国文学科

国語

p. 8

二

本文二行目

(誤)

辛く



(正)

辛つらく

一

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。ただし、設問の都合上、本文の一部を省略し表記を改めたところがある。(40点)

(著作権の関係で不掲載)

(著作権の関係で不掲載)

(注) ○グレコ・ローマン……紀元前二世紀後半からローマ帝政初期の美術様式。 ○輓犬……車などを引く犬。

問一 傍線部①～⑩のカタカナを楷書の漢字に改めよ。

問二 傍線部 X・Y の四字熟語の意味をそれぞれ説明せよ。

問三 本文中の「A 在的」と「B 在的」が対の概念になるように、それぞれ漢字一字を入れよ。

問四 この文章の章題である「C あることとC ないこと」のCに入る語句を、本文中から三字以上五字以内で抜き出して示せ。

問五 傍線部 I はなぜか。筆者の考える理由を、本文中の語を用いながらわかりやすく説明せよ。

問六

本文中の

中略

の部分には、ヨーロッパ人の思考様式について、次のような言説が紹介されている。

・イタリアの学生は、真理を探究するよりも、相手を説得する弁論術をみがいっているように見える、という経済学者・松浦保助氏の言説

・ドイツ人は、事実よりも、矛盾がなく論理的に構成された理論の方を真実と考えているらしい、という言語学者・江沢建之介氏の言説

このことを踏まえたうえで、

中略

より前の部分と後の部分の内容を総合的に捉えつつ、本文中の筆者の主張を

わかりやすく説明せよ。

次の文章は、倒幕計画の露頭した後醍醐天皇が隠岐島に流された後の場面である。後醍醐天皇は廃位され、光厳天皇の即位が決まっている。文章を読んで、後の問いに答えよ。(30点)

隠岐の小島には、月日経るままに、いと忍び難う思さるる事のみ数添ひける。いかばかりの怠りにてかかる憂き目を見るらんと、前の世のみ辛く申し知らるるにも、いかでその罪をも報いてんと思して、うちたえ御精進にて、朝夕勤め行はせ給ふ。法のしるしをも試みがてらと、かつは思すなるべし。みづから護摩なども焚かせ給ふに、いと頼もしきこと、夢にも現にも多くなんありける。つれづれに思さるる折々は、廊めく所に立ち出でさせ給ひて、遙かに浦の方を御覧じやるも、海人の釣舟ほのかに見えて、秋の木の葉の浮べる心地するも、あはれに、いづくをさしてかと思さる。

II ころざす方を問はばや波の上に浮きてただよふ海人の釣舟

「浦漕ぐ舟の楫を絶え」とうち誦して、御涙のこぼるるを、何となく紛らはし給へる、言ふよしなく心深げなり。ねび給ひにたれど、なまめかしうをかしき御様なれば、所につけては、ましてやんことなきあたらしさを、みづからいとかたじけなしと思さる。京には十月になりて、御禊・大嘗会などのいそぎに天の下もの騒がしう、内蔵寮・内匠寮・打殿・染殿、何くれの道々につけて、かしかましう響きあひたるも、片つ方は涙の催しなり。

悠紀・主基の御屏風の歌、人々に召さる。書くべき者のなければ、かしこへ参れる行房中将をや召し返されましなど定め給ふ。まだきに伝へ聞し召しければ、夜居の間の静かなるに、御前にことに人もなく、この朝臣ばかり侍ひて、昔今の御物語のついでに、「都に言ふなることは、いかがあらんとすらん。さもあらば、いとこそ羨ましからめ」とうち仰せられて、火をつくづくとながめさせ給へる御目見の、忍ぶとすれど、いたう時雨させ給へるを見奉るに、中将も心強からず、いと悲し。

「いかばかりの道ならば、かかる御有様を見置き聞えながら、憂き故郷には出で帰らん」と思ふも、え聞えやらず。後夜の御行ひに、さながらおはしませば、潮風いと高う吹き来るに、靨の音さへ耐へがたく聞えて、いみじう寒き夜の氷をうち叩きて悶々奉るも、山寺の小法師ばらなどの心地ぞするや。少将、この中将など、橋折りて参れるも、「いつ習ひてか」とあはれに御覽せらる。「今一度いかで世を御心に任するわざもがな」と、人の心のけぢめ分かるるにつけても、深う思しまさる事のみ数知らず。

〔増鏡〕による

(注) ○浦漕ぐ舟……「須磨の海人の浦漕ぐ舟の楫を絶え寄るべなき身を悲しかりける」(『続古今集』・雑中・小野小町)を踏まえる。 ○御禊……新天皇が大嘗会に先立って行う禊みそぎ。 ○大嘗会……新天皇が即位後初めて行う新嘗祭。 ○内蔵寮・内匠寮・打殿・染殿……大嘗会に必要なものを準備する宮中の役所。 ○悠紀・主基の御屏風……悠紀・主基は、大嘗会の折、新穀を献上する国郡で、大嘗会の祭場には、選ばれた国郡の名所を描き、和歌を記した屏風を立てた。 ○行房中将……世尊寺行房。能書家。 ○夜居の間……宿直の部屋。 ○閼伽……仏に供える水。 ○少将……千種忠顕ちかたけ。 ○櫓……仏に供える木。

問一 傍線部ア、エの語句の、本文中における意味を記せ。

問二 二重傍線部「なる」について、文法的に同じ用法の「なる」を含むものを、次から一つ選び、番号で答えよ。

- ① 愚かなる心や見えん増鏡古き姿にたちは及ばで
- ② その夜になるまで、勅使をたびたび奉らせ給ひつつ
- ③ 今の世の人の御心どもも、あまり健よかにて、雅を交はすことのおはせぬなるべし
- ④ 末遠き千代の影こそ久しけれどもまだ二葉なる石崎いはさきの松
- ⑤ その同じころ、中宮も位去り給ひて、藻壁門院とぞ聞こゆなる

問三 波線部Ⅰについて、「かかる」の内容を具体的に示した上で、わかりやすく現代語訳せよ。

問四 波線部Ⅱにおいて、後醍醐天皇はなぜ小野小町の和歌の一節を「うち誦し」たのか。その理由を、小野小町の和歌を踏まえてわかりやすく説明せよ。

問五 波線部Ⅲについて、主語を明確にして、具体的な状況がわかる形で、現代語訳せよ。

三

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合で返り点・送りがなを省略したところがある。(30点)

蘇峻乱、諸庾逃散。庾冰時為吳郡。单身奔亡、民吏皆去。唯郡

卒独以小船載冰出錢塘口、蓮際覆之。時峻賞募覓冰、属所在搜檢

甚急。卒捨船市渚、因飲酒醉還、舞棹向船曰、何処覓庾吳郡、此

中便是。冰大惶怖。然不敢動。監司見船小裝狹、謂卒狂醉、都

不復疑。自送過淞江、寄山陰魏家、得免。後事平、冰欲報卒、

適其所願。卒曰、出自廝下、不願名器。少苦執鞭、恒患不得快

飲酒。使其酒足余年畢矣、無所復須。冰為起大舍、市奴婢、使

門内有百斛酒、終其身。時謂此卒非唯智、且亦達生。

〔世説新語〕による

(注) ○蘇峻乱……中国東晋で武将蘇峻が起こした反乱。当時は成帝の時代で、外戚の庾氏の一門が権勢を誇っていた。○庾冰……庾氏一門の人。○吳郡……吳郡(江蘇省)太守。○郡卒……吳郡の兵卒。○錢塘口……錢塘江の河口。○邊條……竹で編んだむしろ。○賞募……賞金をかけること。○屬所在……あちこち各地に命じて。○市渚……市場の河岸。○惶怖……おそれおののくこと。○監司……取り調べの役人。○装……荷を積む場所。○澗江……錢塘江。○山陰……地名。現在の浙江省紹興市。○廡下……下賤の身分。○名器……爵位と、その位にふさわしい車や服飾など。立派な身分。○執鞭……こき使われること。○須……必要とする。○大舎……大きな家。○斛……当時の一斛は約20リットル。

問一 波線部①④の読みを、現代かなづかいにより、送りがなも含めてすべてひらがなで記せ。

問二 傍線部 A について、なぜ郡卒はそのようなことを言ったのか。わかりやすく説明せよ。

問三 傍線部 B・C それぞれについて、

- (一) 現代かなづかいにより、すべてひらがなで書き下し文に改め、
(二) 現代語訳せよ。

問四 傍線部 D について、言葉を補ってわかりやすく現代語訳せよ。

問五 傍線部 E について、「達生」とはどういうことか。本文の内容に即してわかりやすく説明せよ。